

豊坂小学校保護者 各位

幸田町立豊坂小学校長 本多 宣子

## 豊坂小学校教育診断アンケート結果及び分析等について

春暖の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、過日お願いをいたしました学校教育診断アンケートにつきましては、ご協力ありがとうございます。おかげをもちまして、2月14日にはその集計結果をもとに学校関係者評価委員会を開催し、委員の方から貴重なご意見を頂きました。ここに、アンケートの集計結果と委員の方から頂いたご意見をもとにした今後の学校運営のまとめをお届けしますのでご覧ください。よりよい豊坂小学校をめざして職員一同、一層の努力をしておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

A…よくあてはまる（そのように思う）	回答数	児童(4～6年)	189名
B…ややあてはまる（どちらかというとそのように思う）		保護者(全学年)延べ	368名
C…あまりあてはまらない（どちらかというとそのように思わない）	回収率	児童	98.4%
D…まったくあてはまらない（まったくそのように思わない）		保護者	97.3%

対象	番	評	価	設	問	A+B
----	---	---	---	---	---	-----

## 1 楽しい学校

児童	3	学校へ来るのが楽しい。				82%
保護者	3	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。				89%

保護者は、A+Bの割合は横ばいであったが、Aが昨年度に引き続き伸びている。一方、児童は4%減少した。この調査項目は、本調査の中でも最も重要な項目と捉え、学校へ通うのが楽しいと思えるように一層努力していきたい。

## 2 あいさつ

児童	4	元気にあいさつや返事ができる。				81%
保護者	4	お子さんは、あいさつや返事がよくできる。				83%

この2年間増加してきたが、本年度は児童は8%、保護者は3%減少した。代表委員会が「あいさつ運動」を継続して取り組んでいるが、児童の挨拶はまだ十分ではないという意識の表れとも考えられる。挨拶は、生徒指導の第一歩であり、学校の雰囲気づくりの原点であるため、さらに代表委員会の取り組みを工夫し、教員の指導との両輪で挨拶への意識を高めていきたい。

## 3 行事

児童	5	学校の行事（運動会や学芸会など）は、楽しく積極的に参加している。				93%
保護者	5	お子さんは、運動会、学芸会、マラソン大会などの学校行事に積極的に参加している。				94%

保護者は概ね昨年度と同様の結果となったが、児童はわずかに減少したものの93%と高く、行事に積極的に参加していることをうれしく受け止めたい。さらに工夫・改善を図り、残り7%の児童についても積極的に参加できるように支援していきたい。

## 4 自治活動

児童	6	委員会活動には、意欲的に楽しく参加している。				89%
児童	7	学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。				92%
児童	14	自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている。				86%
児童	15	学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる。				82%

ここ数年、委員会や学級活動といった児童の自治活動を支援し、自治力を伸ばすことをねらいの一つとしてきた。本年度は、児童設問6・7・14はやや減少したが、児童設問15は6%増加した。自分たちで協力して解決することは、「生きる力」として大事なことである。今後、さらに伸ばしていけるように手だてを工夫したい。

対象	番	評	価	設	問	A+B
----	---	---	---	---	---	-----

## 5 授業

児童	8	授業は分かりやすい。				84%
児童	9	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。				59%
児童	10	授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている。				93%
児童	13	授業のふり返りや感想、日記などに自分の思いや感想を進んで書いている。				74%
保護者	6	お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。				80%
保護者	9	学校は、ドリルタイムや少人数指導・ティームティーチング（複数教師による指導）等により基礎学力の定着を図ろうとしている。				90%

最も大切にしなければならない授業について、5年連続で増加してきた児童設問8と保護者設問6がわずかであるが減少した。一方、児童設問9・10・13の3つの項目は微増した。これは、授業に向かう姿勢づくりに取り組んだからと考えられる。さらに、分かりやすい授業、進んで「話す・聞く・書く」言語活動の力がつくように指導・支援のあり方を工夫していきたい。

## 6 体力チャレンジ

児童	11	体力チャレンジ（すもう・なわとび・マラソン）は、積極的に取り組んでいる。				91%
保護者	7	学校は、体力チャレンジや行事、授業等を通して体力の増強と健康の増進を図っている。				97%

児童・保護者ともにわずかであるが増加したことは、成果と評価したい。さらに、よりよい活動のあり方、支援の方法を模索していきたい。

## 7 読書とスピーチ

児童	12	読書や読み聞かせの時間は楽しい。				81%
保護者	8	学校は、読書・読み聞かせ等を重視し、豊かな心を育てようとしている。				94%

児童・保護者ともにわずかではあるが増加したのは、図書委員会活動や読み聞かせボランティアとの協力の成果と思われる。朝の活動の時間を有効に活用し、豊かな心を育てる手だてをさらに工夫していきたい。

## 8 自信（自己有用感）

児童	17	勉強や運動、係・委員会活動、掃除、遊びなど学校での生活のなかで、自分には自信をもっているものがある。				87%
保護者	10	先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている。				88%

自信(自己有用感)を高めることについて、保護者はほぼ横ばい、児童は増加したことをうれしく受け止めたい。これからも、手だてを常に見直し、家庭との連携を図って児童が自信を高めて取り組めるように支援していきたい。

## 9 悩み・いじめ

児童	18	いやなことを言われたりされたりして、長い間なやむことはなかった。				72%
保護者	11	お子さんは、いやなことを言われたりされたりして、長い間悩むようなことはなかった。				75%
児童	16	友達のいやがることはしないように、悪口は言わないようにしている。				90%

いじめを含めた意識調査である。児童・保護者設問ともにわずかではあるが減ってしまった。この結果を真摯に受け止め、一層思いやりの心を育てることに努めるとともに、児童設問18のC+Dの28%に目を向け、この数字を早く減らすよう対応していきたい。

対象	番	評	価	設	問	A+B
<b>10 友達</b>						
児童	19	自分が困ったりなやんだりしたとき、相談したり助け合ったりできる友達がいる。				84%
保護者	12	お子さんは、相談できたり協力できたりする友達が学校にしている。				84%
児童・保護者設問ともに、ほぼ横ばい状態である。さらに、児童同士がかかわる機会を設けるなど手だてを工夫し、温かい人間関係づくりに力を入れていきたい。						
<b>11 先生への信頼</b>						
児童	20	自分が困ったりなやんだりした時、相談できる先生がいる。				75%
児童	21	わたしたちの気持ちを考え、がんばりを分かってくれる先生が学校にはいる。(担任の先生以外にいる場合でもよい)				80%
保護者	13	先生や学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。				85%
保護者	14	先生や学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気がある。				88%
保護者	15	先生や学校は、子どもの気持ちをよく理解し、認めてくれる。				88%
児童設問20・21が、本年度は前者が9%、後者が5%増加した。また、3～5年連続増加した保護者設問はほぼ横ばいであるが、5年前と比べ約20%程度の増加を維持し、高い評価をいただいている。保護者から信頼されていることをしっかり心に留め、さらに児童が相談しやすい教員の対応と児童・保護者に信頼される関係づくりに努力していきたい。						
<b>12 良い関係づくり</b>						
保護者	18	学校は、保護者や地域の人たちと良い関係づくりに努めている。				92%
保護者設問は3%減少したものの、Aは大きく伸びており高い評価をいただいたと受け止めている。引き続き、保護者や地域の方との良い関係に努めていきたい。						
<b>13 安全・安心</b>						
保護者	16	学校は、地震や風水害の場合について適切に対応し、安全・安心な学校づくりに努めている。				92%
災害時を想定した対応を保護者へ通知してきたことや、避難訓練の見直しに加え、緊急メール配信等が評価されたと思われる。来年度もさらに推進していきたい。						
<b>14 通信・お知らせ</b>						
保護者	17	学校は、通信や授業参観等を通して学校の方針や様子がよく分かるようにしている。				93%
昨年度に引き続き、本年度も微増した。さらに、教育目標や方針をわかりやすく伝え、保護者と協働体制を整えていきたい。						
<b>15 その他</b>						
保護者	19	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。				89%
本年度は、4%減少した。このことをきちんと受け止め、通知表の評価について説明責任を果たしていけるように努めたい。						

## アンケート結果と学校関係者評価委員会のご意見を踏まえた今後の学校運営について

### ① 全体

全体としては、引き続き良い評価をいただいた。今後、今の方向をさらに良くするというスタンスで臨みたい。

### ② 楽しい学校

「学校へ来るのが楽しい」の設問で、AまたはBを選択した児童は82%とやや減少したが、保護者は89%と横ばいだった。また、「授業は分かりやすい」の児童設問は84%、「学校の行事は積極的に参加している」は93%である。児童が学校生活を充実していると感じる第一歩は、分かる授業であり、学校行事を楽しみに取り組むことである。この結果を真摯に受け止め、さらに教員研修と学校行事を工夫していきたい。

### ③ あいさつ

あいさつと返事は生活習慣の基本であり、温かい人間関係づくりに欠かせないものである。代表委員会が継続して「あいさつ運動」を展開しているが、「元気にあいさつや返事ができる」の設問でAまたはBを選択した児童の割合が8%減少した。これは、高いレベルをみざす児童の意識の表れとも考えられる。今後、さらに代表委員会の工夫した啓発活動と教師の指導の両輪で、全校のあいさつへの意識を高めていきたい。

### ④ 教師への信頼関係

児童と教師の温かい信頼関係は、学校教育の底辺を支えるものである。「相談できる先生がいる」「私を分かってくれる先生がいる」など、児童の教師への信頼に関わる設問で、AまたはBを選択した児童の割合が前者は9%、後者は5パーセント増加した。また、ここ数年増加していた保護者設問3つは本年度も高い評価をいただいている。さらに児童が相談しやすい対応と、児童・保護者に信頼される関係づくりに努力していきたい。

### ⑤ 自信（自己有用感）

本校は、児童の自信（自己有用感）を高めることに長年取り組んできた。本年度は、「自分には自信をもっているものがある」という設問でAまたはBを選択した児童の割合がわずかに増加した。3年連続増加した保護者設問「先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている」は、本年度も高い評価をいただいた。今後も、手だてを常に見直し、ご家庭にご協力いただきながら連携して児童の自信を高めていきたい。

### ⑥ 自治活動

自分たちの生活を自分たちでよくしていくという姿勢は、社会生活の基礎となるものである。全学年が、発達段階に応じた学級活動を行い、4年生以上はさらに児童会活動（委員会活動）を行っている。昨年度はこの取り組みに関する設問3つにおいてAまたはBを選択した児童の割合が増加したが、本年度はやや減少した。しかし、「学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる」の設問は6%増加した。自分たちで協力して解決することは、「生きる力」として大事なことである。今後も、さらに指導・支援を工夫していきたい。